

4. 学生の受入れ

<学部における学生の受け入れ>

(1) 学生受け入れ方策

本学においては、教育理念である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決することの出来る人材の育成を図ることとしているが、意欲と能力のある学生を受け入れるために、多様かつ複数の入学者選抜方法を実施している。

① 学生募集の組織

「現状及び点検・評価」

○入学者選抜に当たっては、入学試験実施委員会が、学部における入学者選抜試験の運営を担当している。入学試験実施委員会は、大学経営会議により任命された専任教員・大学経営会議室長・事務局長・教務部長・入試広報部長計 10 名をもって構成され、入学試験実施委員長は大学経営会議により指名されている。委員長は、学科長会議で選任された作問委員に作問及び採点を依頼している。

○学生募集の担当組織は、入試広報部が担当し、高校訪問・進学説明会・オープンキャンパスの運営を行い、併せて広報媒体企画の選別を行っている。学内のオープンキャンパス・進学説明会については、各学科教員との連携を図り、円滑かつ効果的な運営を行っている。

② 学生募集方法

「現状及び点検・評価」

○本学の学生募集活動は、前年度入試実績（受験者校・受験者数・入学者数及びオープンキャンパス来場者数など）をもとに、オープンキャンパスの開催時期、進学説明会の実施方法、広報媒体誌などについて入試広報部で検討して原案を作成し、広報担当の専任教員との委員会、学科長会議及び大学経営会議の審議・承認を経て実施している。また、高校訪問においては担当グループが年に 3 回、オープンキャンパスのお知らせや入試説明などについて、重点的に情報提供を行っている。

○進学説明会の実施状況（平成 19 年度）は次のとおりである。

・進学説明会

高校教員対象説明会（6 月実施）、高校生対象説明会（10～12 月に 3 回実施）、広告代理店が行う説明会（高校説明会（34 回）、会場形式説明会（38 回））。

表 27 進学説明会来場者数（学内）

区分	平成 18 年度	平成 19 年度
来場者数	378 名	430 名

・ 広報媒体等

受験雑誌広告（28 誌）、インターネット広告（5 企画）、新聞媒体（1 社）。

・ オープンキャンパス（3 回実施）

学長・理事長講演、教職員による入試説明会、学科別相談会、学生支援センターによる寮・奨学金などの相談会、学科による模擬授業、学科による体験実習型模擬授業、実習病院見学、応援企業による医療機器説明・体験、在学生による相談会。

・ 高校訪問（961 校実施）

各学科の紹介、入試説明、模擬授業（11 校実施）。

・ 予備校訪問（67 校実施）

各学科の紹介、入試説明。

○オープンキャンパスでは、入学後の実習の体験授業や在学生の説明・案内など、高校生の視点で本学の雰囲気を理解してもらうことを重点的な目標としているが、来場者のアンケートからも十分満足を得ていることが明らかとなっている。

（表 28 オープンキャンパス来場者数）

（表 29 オープンキャンパスアンケート実施結果（平成 19 年度））

○また新入学生についても入学時に本学志望動機などの追跡調査を行い、次年度の学生募集活動の基礎データにして役立てている。

（表 30 平成 20 年度入学者アンケート実施結果）

表 28 オープンキャンパス来場者数

区 分	平成 18 年度	平成 19 年度
来場者数	1,759 名	1,890 名

表 29 オープンキャンパスアンケート実施結果（平成 19 年度）

○体験授業について（回答者数 392 名）

大変満足	満足	普通	やや不満	不満	計
170	170	46	5	1	392

表 30 平成 20 年度入学者アンケート実施結果

(対象者数 290 名、回答者数 287 名、回答率 99.0%)

○以下の中で、あなたがご利用されたものを教えてください。(複数回答可)

項 目	回答数
① 本学大学案内	214
② 本学ホームページ	236
③ 本学オープンキャンパス	141
④ 本学入試説明会	109
⑤ 本学に直接訪問	47
⑥ 高校主催の進学講演会	13
⑦ 予備校主催の進学説明会	29
⑧ 会場進学ガイダンス	19
⑨ その他	4
不明	7
合 計	819

○大学や学部学科を選ぶ際、情報収集にあたり参考にした手段を教えてください。(複数回答可)

項 目	回答数
① 受験情報	161
② 進学に関するインターネットサイト	109
③ 本学大学案内	170
④ 本学ホームページ	166
⑤ 本学オープンキャンパス	111
⑥ 本学への直接訪問	24
⑦ 本学主催入試説明会	43
⑧ 高校の先生	53
⑨ 塾・予備校	81
⑩ 家族(保護者)	30
⑪ 友人知人	35
⑫ 先輩	21
不明	13
合 計	1,017

「今後の改善・改革に向けた方策」

オープンキャンパスについては、来場者が受験に結びつく傾向にあるので、今後も学生募集に係る広報活動の重要な方策とする。

なお、入学者のアンケートにおいても、インターネットにおける検索からホームページに接続する例が急増していることから、本学ホームページの充実を図るとともに、ネット検索で本学が登場する回数を増やす方策が必要である。

(2) 入学者選抜方法

「現状及び点検・評価」

○入学試験実施委員会では、各学科の特性に鑑み、各学科が求める学生像を明らかにした上で、入試方法や実施時期を検討し、入学者選抜の基準を明確にして、学科長会議及び大学経営会議の審議・承認を経て実施している。

○入学者選抜方法としては、①一般入学試験、②大学入試センター試験利用入学試験、③推薦入学試験、④アドミッション・オフィス（AO）入学試験の各試験を実施している。（表 31 試験区分と募集定員（平成 20 年度））

① 一般入学試験

○一般入学試験は、各学科の教育に必要な基礎学力を備えているかどうかを評価し、その能力を備えている者を選抜する試験である。この入試は学力を重視し、優秀な学生を確保する中心の入試として位置づけられ、そのためもっとも定員を多く確保している。

○一般入学試験は前期・中期と 2 回実施し、本学（五反田・世田谷）のほかに地方会場（横浜・大宮・千葉・水戸・静岡）で実施している。中期は本学及び横浜・大宮会場である。なお平成 19 年まで新潟会場を設置していた。前期と中期では前期の定員を多くし、またこの前期試験はスカラシップ（特待生）選抜も兼ねている。

○試験科目は、全学科共通試験とし、英語を必修とし、看護・医療栄養学科は国語（現代文のみ）と数学Ⅰ・A、生物Ⅰと化学Ⅰの選択で、3 教科試験としている。医療情報学科は受験者が文・理系であることから、英語を必修とし、国語（現代文のみ）、数学Ⅰ・A、生物Ⅰ、化学Ⅰから 2 科目を選んだ 3 教科試験としている。これらの科目は入学後のカリキュラム上、基礎学力として不可欠であるため、入試科目として重視している。また、出願時に 2 学科の併願を可能としている。

② 大学入試センター試験利用入学試験

○大学入試センター試験利用入試は、一般入学試験と同様に各学科に必要な基礎学力を備えた者を選抜することを目的にすると同時に、本学を地理的な条件で受験できない地域の受験生にも受験の機会を与える入試として位置づけている。

○試験科目は一般入学試験と同じ科目であるが、英語はリスニングテストを含み 250 点満点を 100 点に換算している。また医療情報学科については、学科の特性から数学Ⅱ・B、情報関連基礎も選択できるようにして、入学後のカリキュラムと連動するように工夫している。

③ 推薦入学試験

推薦入学試験は、高等学校における成績や活動歴などが優れている点を評価して選抜を行っている。推薦入学試験には、公募制推薦入試、指定校推薦入試及び附属・協力校推薦入試がある。なお女子バスケットボール部を対象としたスポーツ推薦入試を指定校推薦入試の枠内で行っている。

○公募制推薦入試

高等学校長から推薦された現役高校生を対象として平成 18 年度から実施している。

試験は小論文及び面接により行っており、高等学校の成績（評定平均値）は得点化しているが、小論文を重視している。

○指定校推薦入試

- ・指定校推薦入試は一般入学試験で実績のある高等学校を指定校とし、高等学校長より推薦された者を評価する選抜方式である。本学の場合、出願に当たっては高等学校の成績に条件を与え、小論文と面接試験を実施している。
- ・指定校の選出に当たっては、前年の一般入学試験の入学者数を中心にして、入学試験実施委員会で慎重に選出し、学科長会議を経て大学経営会議で決定する。
- ・そのため、基本的には指定校は実績がなければ毎年更新される。なお女子バスケットボール部についても、大会実績などを加味するが学力条件などは、他の指定校選抜方法と同一である。

○附属・協力校推薦入試

- ・附属校とは本学と関係の深い、渋谷教育学園・多摩大学附属校など学園グループを形成している6校を指す。また協力校とは、指定校の中でも毎年入学者が安定して継続している高等学校及び開学時に協力的であった高等学校であり、他の指定校と異なり毎年指定を見直さない高等学校を協力校と呼んでいる。
- ・この推薦入試は、今後の高大連携も視野に入れて模擬授業の受講レポートを小論文の代わりに提出させ、本学の理念・教育目標、各学科の目指すところや授業内容などを十分に理解することを目的としている。
- ・また附属・協力校推薦入試で合格した者についても入学後の基礎学力維持のために、12月より事前教育学習プログラムを実施し、モチベーションの維持と入学後必要な基礎学力の維持を図っている。事前教育学習プログラムの主な内容は、通信添削と3ヶ月のスクーリングの実施である。

④ アドミッション・オフィス（A0）入学試験

- 本学におけるA0入学試験は、主に意欲的・活動的で個性的な学生を選抜することを目的としている。そのため選抜方法は、基礎学力ではなく、本学及び各学科のアドミッションポリシーに適合しているかどうかを、自己推薦書、面接（共通）、事前課題論文（各学科別）の3点から総合的に判断して選抜を行っている。
- 本学のアドミッションポリシーは医療の現場に必要な生命への畏敬・協調性・積極的な問題解決能力などを備えた学生を求めている。また各学科においてもアドミッションポリシーにおいて、その求める学生像を明らかにしているが、共通するのは、「チーム医療」の現場に求められる協働に対し、積極的に問題解決を図り、更に豊かな協調性を持って実践するという意欲と能力を兼ね備えた個性的な人材を選抜している。
- そのため、自己推薦書では意欲と活動を、事前課題論文では自ら調べ自ら問題を解決する能力を、面接では人間性を重視して客観的にかつ総合的に評価を行って選抜している。事前課題論文は各学科別の内容であり、入学後のカリキュラムと関連するようなテーマで実施している。
- なお募集に当たっては学生募集要項に、看護学科及び医療栄養学科は「生物Ⅰ」・「化学Ⅰ」を履修していることが望ましいという条件を提示して、入学後とのカリキュラムと

関連づけている。また入学後の基礎学力維持のために、12月から事前教育学習プログラムを実施し、モチベーションの維持と入学後必要な基礎学力の維持を図っているが、事前教育学習プログラムの主な内容は、通信添削と3ヶ月のスクーリングの実施である。

表 31 試験区分と募集定員（平成 20 年度）

区 分	定 員	試験会場
一般入学試験 前期日程	看護：40 栄養：40 情報：20	東京（世田谷・五反田） 千葉・大宮 横浜・水戸 静岡/新潟
一般入学試験 中期日程	看護：12 栄養：12 情報：12	東京（世田谷・五反田） 横浜・大宮 千葉・水戸
センター試験利用型 前期日程	看護：15 栄養：15 情報：10	—
センター試験利用型 後期日程	看護：3 栄養：3 情報：3	—
推薦（公募制）入学試験	看護：10 栄養：10 情報：10	東京 （五反田）
推薦（附属系列Ⅰ期・指定校） 入学試験	看護：10 栄養：10 情報：10	東京 （五反田）
推薦（附属系列Ⅱ期）入学試験	情報：若干名	東京 （五反田）
A0 入学試験	看護：10 栄養：10 情報：15	東京 （五反田）
合 計	看護：100 栄養：100 情報：80	

「今後の改善・改革に向けた方策」

- (1) 一般入試については、入試日程が適切であるか、学生募集上の影響などを考慮して今後定める必要がある。
- (2) 大学入試センター試験利用入試においては、前年度の成績及び今後過去3年間の成績利用が可能になるが、本学ではそれには対応していないことから、システムを含めて検討する必要がある。
- (3) 公募制推薦入試では、調査書・小論文試験・面接のうち、小論文試験に比重を置いているが、これは調査書が学校間やコース間で基準が異なっているためである。この調

査書の評価については今後も受験生に公平になるよう、その扱いについて検討することとする。

- (4) 附属校・協力校及び指定校推薦入試では、受験生はややもすれば早く入学を決めたいという風潮があるので、志願者が本当に第1志望であるかどうかの確認を行って、入学後の進路変更などの問題が起きないように、選抜方法を工夫する必要がある。
- (5) A0入試については、学力検査を含めるかどうか検討を行っているが、まず「学力」の定義を明らかにする必要がある。学力を「基礎学力」と定義するのか、または「大学教育を受けるに当たって最低限度の学力」と定義づけるかによって異なり、前者は高校までに履修する、いわゆる基礎学力であるが、後者は大学教育が目的とする問題発見及び解決能力であるとするならば、後者をA0入試で問うことには意義がある。そのためには、入学後の追跡調査が重要となることから、今後十分検討を行う必要がある。

(3) 入学者選抜の仕組み

「現状及び点検・評価」

① 入学者選抜試験実施体制の適切性

- 入学者選抜試験実施体制としては、入学試験実施委員会が中心となって入試広報部入試事務課と協同して、試験監督や運営担当など適切に人員配置を行って準備を進めている。運用に関しては、入学試験実施委員長を最高責任者とする全学体制を整備し、各学科入試委員と事務局が地方試験会場の責任者となり試験の実施運営を行っている。
- 試験の実施運営については、大学入試センター試験における実施要領・監督要領などを参考に全学統一した実施要領（試験監督要領・事務運営要領、緊急事態対応マニュアル含む）に基づき運営している。

② 入学者選抜基準の透明性

- 入学者選抜方法について、まず入試問題（入学者選抜基準）は大学入試センター試験のような基礎的な問題を出題するよう作成依頼を行い、履修範囲の逸脱や難問奇問がないよう、作成者と査読校正者を分け二重にチェックを行っている。また、良問を出題すること、問題にミスがないこと、平均点が概ね60点になることに留意して作問を行っているところであり、全体的には開学以来得点調整などを行うような事態は起きていない。
- 入試問題については、終了後問題集を作成し、公表を行っている。採点についてはマークシート式を導入し、機械読み取りとして、更にその結果についても事務的に十分チェックを行っている。
- また面接や小論文の採点についても客観性を保つよう努力し、採点者の平均点が60点になるよう、採点基準・質問項目を明示し、またその理解を促進するためにも事前に説明会を何度も開き、採点者の意識統一を図り、受験生に不利益にならないよう、

入学試験実施委員会が中心となって公平性の維持に努めている。

○したがって、本学の入試体制については公正かつ透明性をもって運営されており、またデータも大学案内に公表していることから、公平性・透明性を保っていると評価することができる。

「今後の改善・改革に向けた方策」

- (1) 本学は開学して日が浅いので、現在、基礎データの作成に努力している。まず入学者については広報ツールの妥当性を検証するため、アンケートを採り分析を行っている。一方、入試関連では入学者に対しプレイスメントテストを行い、入試方法別の学力差、また学年比較の推移データを作成している。更に現在入学後の学内成績との関連を調査して基礎データの作成を行うこととしている。
- (2) まだデータの蓄積が少ないが、基礎学力の欠如が心配される A0 入学試験の入学者が最終学年時に成績上位者になる例が各学科で見られるので、今後この入試方法の長所を更に発展させることとし、データを分析してこの入試方法の改良に努める必要がある。
- (3) また在学生の文章能力が劣ることが懸念されているので、一般入学試験及び大学入試センター試験利用型の入学者についても、今後試験方法の見直しが求められる。なお、入学試験の運用に当たっては、誤字・脱字などの入試問題のミスが生じないように徹底を図るとともに、今後も良問の作成に努める必要がある。

(4) 定員管理

「現状及び点検・評価」

- ① 本学の学生収容定員と在籍学生数の比率及び入学定員と入学者の比率では、各年度とも全体で 1.2 倍を超えていないところから大学全体としての定員管理は適正と考えられる。
- ② なお、平成 20 年度においては、医療情報学科の入学者数が入学定員を下回り、比率が 0.85 となったことから、平成 21 年度に向けては、指定校推薦枠の追加を行うとともに、本学入学案内、ホームページ、オープンキャンパス及び学校訪問等において医療情報学科の特性を強くアピールするなどの対策を講じており、入学定員の確保に努めることとしている。

表 32 学生収容定員と在籍学生数の比率（在籍学生数/収容定員）

学 科	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
看 護	1.06	1.07	1.11	1.13
医療栄養	1.14	1.14	1.13	1.11
医療情報	1.06	1.04	1.00	0.96
大学全体	1.09	1.08	1.08	1.07

表 33 入学定員と入学者数の比率（入学者数/入学定員）

学 科	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
看 護	1.07	1.09	1.24	1.17
医療栄養	1.18	1.2	1.13	1.05
医療情報	1.16	1.06	1.08	0.85
大学全体	1.14	1.12	1.15	1.02

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 看護学科においては看護師学校等養成所指定規則に定める教育課程における実習を円滑に実施する上からも入学定員の比率を 1.1～1.15 程度に保つことが必要と考えられる。
- ② 医療栄養学科においては、管理栄養士の指定科目は原則 40 名以下の人数で行なうことが定められており、再履修者（過年度学生）が配当年次の学生と一緒に履修する場合が想定されることから、入学定員の比率を 1.1 程度に保つことが必要である。そのためには、受験生の動向を的確に把握した上で、過去のデータ等を参考にして合格者の数を適正なものに決定することが望まれる。
- ③ 医療情報学科においては、社会において必要とされる実践的な医療情報コミュニケーターの育成を図るため、高校生・保護者等への PR を積極的に行い、入学定員の確保に努める必要がある。

(5) 退学者

「現状及び点検・評価」

在学学生数に対する退学者率は、平成 17 年度は 0.04%、18 年度は 0.02%、19 年度は 0.02% とこれまでのところ比較的低い割合で推移している。

なお、退学理由については、「進路変更」（他大学受験を含む）が半数以上を占め、続いて「一身上の都合」、「病気」となっている。

表 34 退学者の年度別状況（平成 17 年度～平成 20. 8. 1 現在）

学 科	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	小 計
看 護	1	1	5	0	7
医療栄養	4	6	2	0	12
医療情報	8	4	11	0	23
計	13	11	18	0	42

表 35 退学理由内訳

退 学 理 由	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	小 計
進路変更	9	8	10	0	27
一身上の都合	4	2	5	0	11
病気	0	1	3	0	4
計	13	11	18	0	42

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 学生が退学を希望する場合の現在の手続きは次のとおりである。
 - ・ 学科のアドバイザー教員が当該学生と面談を行う。
 - ・ アドバイザー教員は、退学理由等についての聴取や就学継続の指導等を行った結果を学科長に報告する。
 - ・ 学科長が退学は止むを得ないと判断した場合は、当該学生から「退学願」を提出させる。
 - ・ 学科教授会にはかりその結果を文書で学長に提出する。
 - ・ 学長からの「退学許可」を得て正式に退学が認められる。

- ② 退学に至る学生の場合、授業の長期欠席や保健室を度々利用するなどの兆候が見られることが多いことから、アドバイザー教員を始め、保健室、学生支援センター、教務部等、学生の指導に関わる部署が連携を密にして早期に対応することにより、できる限り就学を継続できるよう支援することが必要である。また、退学理由等の情報を当該学科の教員等で共有することにより、日常の教育活動の中で学生へのより適切な指導を行う必要がある。

<大学院医療保健学研究科（修士課程）における学生の受け入れ>

「現状及び点検・評価」

(1) 学生受け入れ方策

本研究科（修士課程）は、現場における実践能力と研究・教育・管理能力を併せ持つ高度職業人を育成することを目的としている。入学者は原則として現場における実践経験がある社会人とし、大学卒業者及び本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者のうち、大学院教育を修得しうる能力を有する者を受け入れることとしている。

① 学生募集の組織

○入学者選抜に当たっては、大学院入試事務室が大学院における入学者選抜試験の運営を担当している。また、入試面接者は研究科長会議で選任している。

○学生募集の担当組織は、大学院入試事務室が担当し広報媒体企画の選別を行っており、研究テーマの事前相談などについては、各コースの教員との連携を図り、入試個別相談会を実施し対応している。

○入試個別相談会等の実施状況（平成 19 年度）は次のとおりである。

・入試個別相談会

9 月に 2 回実施。

・その他学生の希望日に合わせた教員個別相談

9 月に 5 回実施。

② 学生募集方法

○本学の学生募集活動は、広報媒体と大学院資料請求者（ホームページ、メールなどによる資料請求）への入試情報提供などにより実施している。

○学生募集については、平成 20 年度では収容定員 40 名を超える 51 名を確保しており、本学の広報活動方策の成果であると評価している。

（表 36 大学院医療保健学研究科（修士課程）の在籍学生数（平成 20 年度））

(2) 入学者選抜方法等

① 本研究科のアドミッション・ポリシーに基づいて、選抜の方針を明確に定め実施している。入試は、専任教員と事務職員でそれぞれ役割を定め、入試業務が厳正な環境で安全に実施できるように努めている。

○入学試験

秋季入試（10 月）と春季入試（2 月）を実施。

募集定員は全体で 20 名、春季入試では企業派遣者を中心に若干名を募集。

② 入学者選抜方法は、学力試験（英語の辞書・電子辞書持込可）、面接及び書類審査により、大学院進学の目的と研究計画並びに人物等について、多面的かつ総合的に審査・評価を行っている。

- ③ 評価方法は、採点項目を学力試験、自己推薦書・研究計画書・業績調書の提出書類(以下自己推薦書等と言う)及び面接とし、それぞれの配点の合計評価点を参考として総合的に評価する。
- ④ 採点者及び採点方法は、4名(うち1名は学長)が自己推薦書等と面接の採点者となる。面接者1名が自己推薦書等と面接でそれぞれ評価点をつけ、面接者4名の合計を受験生の評価点としている。
- ⑤ 以上のことから、入学者選抜については厳正かつ公正に運営されていると評価することができる。

表 36 大学院医療保健学研究科（修士課程）の在籍学生数（平成 20 年度）

研究科	コース名	入学定員（名）	収容定員（名）	在籍学生数（名）
医療保健学研究科 （修士課程）	看護マネジメント学	全体で 20	全体で 40	23
	感染制御学			20
	医療栄養学			5
	医療保健情報学			3
合 計		20	40	51

「今後の改善・改革に向けた方策」

- (1) 学生募集に当たっては、引き続き広報活動の充実に努めるとともに、社会の要請及び時代の変化に機敏に対応して工夫を行うなど、今後も入学定員の確保に努める必要がある。
- (2) 平成 21 年度の博士課程（感染制御学）設置に向けて、認可申請を行っているが、今後、本学が感染制御学の分野において人材養成に関する先端的な役割を果たすことが期待される。